

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 16

2008年4月発行

～ありのままに あたりまえに 地域で育つ～

映画上映会 & 事業報告会

同時開催 節分を楽しもう(子ども向けイベント)

2008年2月3日(日)13:30～16:30

大阪市立旭区民センター 小ホール 集会室1

後援: 旭区コミュニティ協会

映画上映会「**ありがとう**」 &

「**子どもからはじめる個人将来計画**」報告会

参加者 45名

障害児の親、障害当事者、教師、介護職、福祉相談員、
ヘルパーコーディネーター、会社員など一般住民

ボランティア(学生2名、社会人1名)、スタッフ4名

障害児とその家族が地域社会のなかで暮らし続けることを中長期的に思い描くことを目的として、知的障害児とその家族の25年間を追ったドキュメンタリー映画『ありがとう』の上映会を開催しました。実家を出て自立することを選択した“奈緒ちゃん”の戸惑いに寄り添い、娘が離れていこうとする家族の葛藤に寄り添うようにして撮られた映画です。

その後、今年度、試行錯誤しながら取り組んできた「子どもからはじめる個人将来計画」の活動報告をシンポジウム形式で行ないました。取り組みの概要を簡単に説明したうえで、本活動に協力いただいた障害児を育てている保護者、ピアカウンセラー、ヘルパーコーディネーターから、活動に参加した理由や気づきなどが報告されました。

「子どもの思いをありのままにうけとめているだろうか」「将来はあなたのものであるということ子どもに伝えているだろうか」「この人生は楽しむためにあるのだということが伝わっているだろうか」。私達は「親として、サポーターとして、私たちはどうなのか」と、自らに問いかけながら模索してきました。今後も、検討を重ねながら、皆さんとともに考えていきたいと思えます。

◇ 映画上映会 (13:40~15:25)

ドキュメンタリー映画「ありがとう」(伊勢真一監督、2006年)

◇ 子どもから始める個人将来計画報告会(15:35~16:30)

シンポジウム 米田克弘氏(ヘルプセンターゆう)

鈴木千春氏(自立生活支援センター・あるる)

Mさん(障害児の保護者)

コーディネーター 鳥海直美(千里金蘭大学人間社会学部人間社会学科、ほうぷ)

<参加者の感想から>

◎ 映画上映会について

- ・ 親の複雑な思いに共感しました。
- ・ 父親に見せたかったです。
- ・ 普通に記録された日常で、「これが普通」ということが大事かなと思います。
- ・ 奈緒ちゃんを育てられたお母さん、お父さんが奈緒ちゃんが生まれ育ってくれたこと、自分達が奈緒ちゃんを育てられたことを本当に心から幸せを感じ、いろんなことに直面しながらも一步一步歩んで、周りの方々も支えながら生きていかれる姿が本当にうらやましいくらい幸せそうに感じました。
- ・ 新聞で映画のことを知っていたので、観たいと思っていました。
- ・ 障害児の家族というより、あたりまえの家族の話で「夫婦関係って大変よね」と思いました。「『男』を生きるのは大変よね、お父さん」と同情してしまいました。
- ・ 自分の子どもと重ね合わせて見てしまうところが多くあり、「お母さん」が気持ちを話している場面でうなずけ共感できました。自分の家族を見ているようでした。
- ・ のびのび明るい奈緒ちゃんが印象的。温かい家族愛、特にお母さんの心の動き、手放す寂しさ、福祉にずっとかかわっているべきかの悩み、など、印象的だった。
- ・ ドキュメンタリー映画「奈緒ちゃん」のその後を観させていただきました。本人や家族、兄弟の正直な思いがひとつのケースとして映されていて良かったです。支援に関わる人たちに見てもらいたいです。どんな思いで、なにを大事に生きてこられたのか、いのちの尊さをしっかりふまえて支援をすることが重要だと思います。
- ・ こんなにも豊かなドキュメンタリー映画があることを全く知りませんでした。素晴らしい作品に触れる機会をいただき感謝です。
- ・ ドキュメンタリー作品としてのクオリティーの高さに驚きました。1シーン、1カットも無駄がなく、映像の力強さにただただ感心しています。もっともっと多くの人に観てほしい映画だと思います。子どもの自立に対する親の気持ちは障害をもつもたないにかかわらず、普遍的なもの。この映画はその親の気持ちが素晴らしい形で表現されていて共感もてました。



*子どもの「将来」をキーワードにしました。参加者それぞれが家族のありようを見つめ直す時間になったのではないかと思います。上映会が滞りなく運営されたのは、映画の上映に詳しいボランティアからの全面的なサポートを得たことによります。

◎ シンポジウムについて

- ・ 私の子どもは、言葉でのコミュニケーションがうまく取れませんが、人のかかわりを心から楽しみ、自分のことをわかってもらいたい、仲間（友だち）になりたいといつも思っているようです。それをどんなふうにつなげていってよいか悩み、親の思いだけで経験させたり選択させたりしているように感じていますので、このような計画をぜひ我が子にもしてみたいです。



- ・ とにかく周りの方を巻き込んで行動を実際に起こされていること、子どもの「思い」「プラス面」「プロセス」に視点を当てたプログラムは素晴らしいことだと思う。
- ・ 具体的にワークの進め方、構成メンバーをお聞かせいただき、大変参考になりました。学校をいかに巻き込むかはポイントですね。人をあてがっていることで学校全体で試行錯誤する機会が減っていると感じています。
- ・ とことん本人個人を支援することの重要性。それは学校を地域社会を巻き込んで変えていくという社会変革を踏まえることだと思います。周りの人間もクタクタになっていては良い関係は生まれませんし、丁寧に積み上げていく実践しか未来は作れませんね。
- ・ 重度障害児の娘の将来はどうなるの!?と先が見えなかったのですが、こういうたくさんの人を巻き込んで将来を考えるのは素敵だと思いました。
- ・ 支援計画を作ることによって、本人を多面的に改めて見直すことができ、また、さまざまな可能性を探ることができる、というのは他の福祉分野にも当てはまると思います。参考になりました。今回のセミナーの内容は、まだ実践期間が短く、ちょっと物足りなさを感じた。
- ・ 「一緒にかかわるために計画を作る」という視点がずっと入りました。すっきりわかりやすい資料でとてもいいと思います。多くの人に見てもらえて、実践にいかせると思います。友人を結びつけるようにしていく支援の位置が大事だと学びました。
- ・ ヘルパーとしていろんな児童にかかわり、将来を見据えたことが少しでもできれば、いや、そんな思いをもつことが大切なことだとわかりました。
- ・ 自分の子どもにあてはめて、やってみたいと思いました。
- ・ 本来、ケアマネジメントの中で行っていくべきこと、中心にある視点ですよね。すごく興味深く、とくに子どもの友達が参加するところが参考になりました。もう少し詳しく知りたいです。
- ・ 計画を立てることをきっかけに学校の先生やピアカウンセラー、兄弟姉妹などが出会い、話ができていたり、いろんな人が当事者の立場に立つことがいいなあと思いました。参加した人たち自身がいろんな気づきを得られるだろうと考えました。

*実際にワークショップで作成した記録用紙を展示し、実際に用いた記録用紙なども掲載した報告資料集を配布することで、短時間の報告内容を補完することとしました。アンケート結果から教育(個別の教育支援計画)との連携が課題として浮かび上がりました。

節分を楽しもう (子どもイベント)



参加者 子ども 18名 (うち障害児 8名)
ボランティア 21名 (学生 17名、
社会人 4名)、 スタッフ：1名

2月3日は節分。豆まきをしようとボランティアの学生さん達の有志が、新年早々に集まり企画をしてくれました。学生さん達に進行もしてもらい、皆で力を合わせて運営しました。看護師、保育士の社会人ボランティアの心強いバックアップに楽しい時間を過ごしました。

<ボランティアの感想から>

- ・ 普段、障害のある子とかかわることがなかったので、かかわり方に不安を感じていた。Aちゃんはすごく私になついてくれた。地域の交流の場として今日のような行事のあることがわかって勉強になった。今後、このような機会があれば参加していきたい。
- ・ 話をしたり遊びを通じて、その子どもの特徴や好きなものを知ることがとても楽しく感じた。対応が難しく感じる場面もあったけれど、担当の子どもも含め、そこから他のお友だちともかかわりをもてて良かった。
- ・ ほうぶのボランティアに参加したのは2回目です。担当したお子さんは、車椅子で全介助が必要だったのですが、社会人ボランティアの方々に教えてもらいながら、座り方を工夫することやトイレでの介助などを初めて経験した。今後にいかしていきたい。
- ・ 意思疎通がちゃんとできるか不安だったが、コミュニケーションを取ることができ安心した。Bちゃんもすごく楽しそうにしてくれていたのが、嬉しかった。
- ・ 最初は何をしゃべっていいかわからず戸惑っていたが、時間が経つにつれて次第にうちとけていけたのが良かった。今回の経験を大学の実習などに役立てたい。
- ・ 最初はお母さんと離れて泣いていたけど、慣れてきてくれて、泣きやんでみんなと一緒に遊んでくれていた。やはり、鬼は怖いんだなと思った。
- ・ 今日、0歳から小学生まで、幅広い子どもとのふれあいができてすごく貴重な時間を過ごすことができました。どんな子でも、ひとりひとりいいものをもっていき、学ぶこともたくさんあった。良かった。
- ・ 障害をもった子と長い時間を接することが初めてのことで少し緊張した。大きな声で挨拶ができる子で、帰りにも「バイバイ」と言ってくれて嬉しかった。「これは誰？」と描いた絵に対して質問したら、すぐに答えてきてくれた。絵についてだけでなく、もっとコミュニケーションを取ることができたらよかった。短い言葉で話しかけると、返事をしてくれたので、もっとうまく声かけができればよかった。



- ・ 今まで、高齢者や障害をもつ方にかかわるボランティアには多く参加してきたが、お子さんを相手にするボランティアは初めてだったので、最初は受け容れてもらえるかどうか不安だったが、次第に打ち解けてきてくれて、私自身も楽しめたので良かった。お子さんへ返す言葉について慎重になってしまいましたが、もっと勉強して素の心同士で交流できるようになりたい。
- ・ 会って、時間が余り経たない時からたくさん話をしてくれてとても楽しかった。Cちゃんはお笑いが好きみたいだった。一緒に遊んだりでき良かった。
- ・ 今日は進行役だったのですが、思うようにできず、社会人ボランティアさんに頼りっぱなしだった。そんな感じでしたがすごく楽しかった。子ども達も楽しい時間を過ごせていたら嬉しいのですが、一緒に過ごしていると楽しんでもらおうと最初は思うのですが、最後は子ども達に楽しませてもらい笑顔やパワーをもらっている。今日も楽しい一日を過ごすことができた。
- ・ 全体を引っ張る役は大変難しかった。子どもと接する時間はほとんどありませんでしたが、とても勉強になった。
- ・ こういう活動があることを知り、新鮮な感動を覚えました。学生が前向きに参加されているのに驚きました。我が子にもさせたいです。(社会人ボラ)

＜保育スタッフ振り返り＞

「おおきくなったね！」ほうぶの保育も回を重ねるごとに、リピーターの子どもたちが増え、毎回、一人ひとりの子どもたちが大きくなっていることに感動しています。今回は、11ヶ月から13歳までと幅広い年齢のお子さんが参加しました。最初は泣きながら入ってきた子どもたちも、いつの間にか、とけ込んで笑顔になっていきます。



保育ボランティアに参加してくれる学生さんもリピーターが増え、「元気にしてた？」で始まります。今回、学生さんが企画・準備・設定を担当してくれました。緊張した面持ちの学生さんを横目で見つつ、始終笑顔のスタッフでした。学生さんも楽しかったり、悩んだり、疲れたり、いろいろあると思いますが、子どもたちも、学生さんも一人ひとりの顔がいきいきと素敵でした。

＊初めて参加した社会人ボランティア（看護師）より

「はじめは学生さんの子どもたちの扱いに横で見ている、ひやひやどきどき…。思わず手を出そうと思ったのをぐっと我慢して見守っていました。時間がたつにつれ、子どもさんと学生さんが寄り添いあっている姿を間近で感じることができ、すばらしい体験ができました。元気をたくさんもらいました。私も、明日から気持ちを一新してがんばれます。」



～子どもの自立に向けた支援への取り組み～

子どもから始める個人将来計画

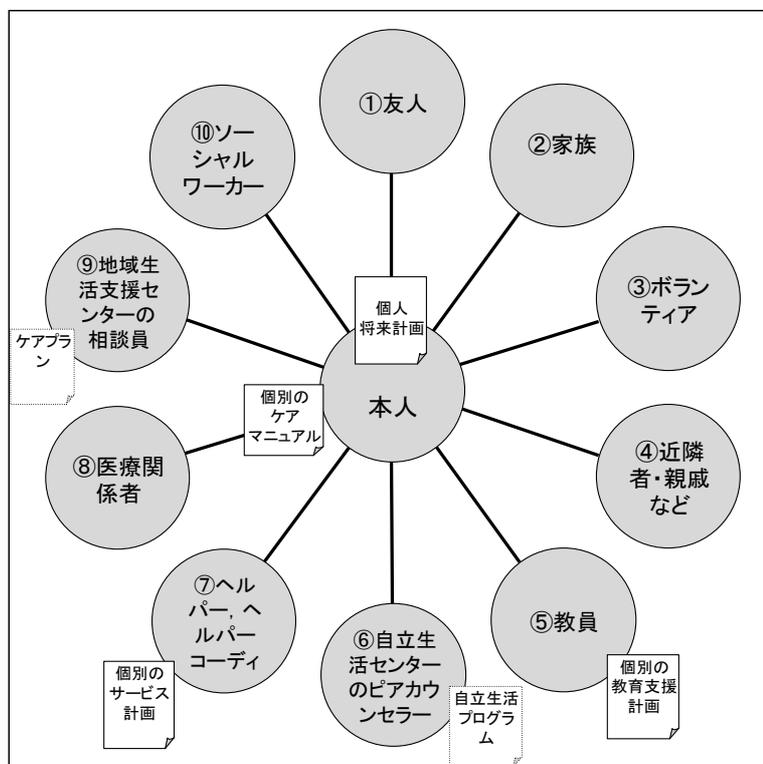
「映画上映会と事業報告」にありますように、昨年度、子どもの自立に向けた支援として「個人将来計画」の作成に取り組んできました。障害をもつ子どもたちは、社会参加の『場』や関わる『人』、そして、『体験』の機会が少ないのが現状です。それは、さまざまな暮らし方を知らずに生きていくことにもなります。将来を思い描く機会もないまま、身辺的な自立の程度や作業能力から将来が決められ、そのための医療的訓練や職業的訓練が行なわれており、周囲の大人たちによって子どもの将来が決められるように感じてきました。また、障害者の自立生活プログラムの取り組みは進んできましたが、障害児の自立に向けた支援はあまりみられません。

そこで、「個人将来計画」という方法を使って、言葉で自分の意見を表現することが難しい子どもに対し、子どもの想いを受けとめ、子どもとともにさまざまな体験を重ねる中で、自分の生き方を自分で決める力を培うことを支援することを模索してきました。子どもを取り巻く社会環境が悪化し、子どもたちが「守られる存在」として位置づけられ、大人主導の生活を強いられる現在において、「障害児」という以前に「権利行使の主体としての子ども」という視点を大切にしたいと考えました。「個人将来計画」は、「～ができない」というように、本人のできないことやマイナス面に焦点をあてて支援を行なうのではなく、本人を中心として「どうありたいか、何をしたいか」という思いをもとにする前向きな支援方法です。

子どもにかかわる者にとって、子どものプラス面に焦点を当てて計画を作成することは、子どもの関心や興味を理解することであり、子どもへの見方を広げることに繋がります。また、子どもに何かをさせるために

「計画」が必要なのではなく、支援者が子どものサポートに役立てるための指針として「計画」が必要であると考えます。

本法人では「子どもからはじめる個人将来計画」と称して、子どもの想いを周りの人たちが受けとめ、その想いを最優先にして、子どもがさまざまな人とともに、失敗も含めた体験を重ねるための計画作りや活動方法を検討してきました。2007年度に取り組んだ一連の試みを報告書にまとめました。子どもの将来を思い描く契機になればと願います。



1年間、試行錯誤する中で、子どもを取り巻く環境のさまざまな課題が浮き彫りにされてきましたが、それらの課題を十分に検討することはできませんでした。福祉と教育と医療との連携をすすめ、学校や地域が子どもたちにとって居心地の良い場所になり、社会の一員として受け容れられることを目指して、今年度は、実践と検討を重ね、課題を掘り下げていきたいと思っています。



～それぞれのペースで音楽を楽しもう～

音楽広場 (1年間のまとめ)

2007年4月～2008年2月(毎月1回)

2008年3月9日 交流会

大阪市立城北市民学習センター スタジオ

参加者 (2007.4～2008.2) のべ99名(9人/1回)
ボランティア のべ6人
交流会 子ども8人、保護者8人

知的障害、身体障害、自閉症などさまざまな障害をもつ9人の子どもたちが、2人の講師とともに、「それぞれの音楽」を楽しみました。ピアノやドラムに熱中する子ども、音楽に合わせて走り回る子ども、じっと座って音楽に耳を傾ける子ども、講師が指導するのではなく、それぞれの思いに寄り添って、いろんな音楽の時間を過ごしました。毎回、講師がそれぞれの保護者に子どものようすを「音楽広場通信」で伝えました。

<講師の振り返り>

- ・ 音楽広場は、子どもの主体性に沿った音楽が展開されます。こちらから何かを提案することはあっても、プログラムのことをさせることはありません。だからこそ、9人の子ども達一人ひとりの時間の過ごし方や音楽が9通り生まれます。それでも、自然といろんなことに気付き、出来るようになり、またチャレンジしてくれるようになる…まだ私は親の経験がありませんが、子どもの成長を感じるというのはこういう感じなのかな、と思ったりします。私たちが思っている以上に毎回毎回を体いっぱい受け止め過ぎてくれる、子どもたちから学ぶことは多いです。音楽広場を生活の一部と感じているようで、「あ、今日は広場の日だ！」…息をはずませて、子どもたちが駆け込んできます。
- ・ 1年間を振り返って、障害をもつ子どもたちの「余暇支援」として音楽を通して関わったこの時間は、貴重で有意義な時間であったと感じています。私たちは、子どもた



ち一人ひとりが望む音楽と音楽スタイルを、一緒に探し、見つけ、取り組んできました。思いをしっかりと受け止めて、より深められるように取り組んだ場合もありました。そこでは、個別に関わっていましたが、それぞれのペースに合わせて、音楽をしたいという気持ちに添うことが可能でした。現在の社会において、障害をもつ子どもたちが自由に音楽を楽しめる場所はまだまだ少ないです。そのうえ、想像以上のお金（月謝や謝礼など）が必要となることは避けてとおれないと思います。地域の中でおこなわれるこの「音楽広場」の活動が、いかに貴重であったかを切々と感じています。

<保護者感想>

- ・ 音楽広場の時間はとても大切な時間で、「おんがく」と聴くと頭の中はその時間のキラキラ感でいっぱいになっているのがわかるくらい目を輝かせています。日常でできないことはたくさんあっても、感情や好みは年相応だったりするバランスのしんどさも「音楽」というもので、心が中和されるんだろうなあと思います。
- ・ 月に1度の日曜日。「ピアノに行くよ」と言うと、うれしそうな顔で準備をします。いろいろな楽器に触れ、楽しく過ごせたと思います。もともとCMソングが好きで、言葉がほとんど出ない時期でも鼻歌を口ずさんでいましたので、こういう機会は本当に良かったと思います。体と音が一体になった時間を楽しく過ごせていたと思います。
- ・ 毎週、少しずつ自分なりの意志でバチをたたき、音が鳴り、顔の表情でもう一度と催促したり、僅かなサインを出しているようです。講師やボランティアの方がそれをしっかりキャッチして、音、楽器の会話で心の栄養をいただいている、そんな感じがします。帰宅後は、「ツボにぴったりはまった～」といった満足げな顔でぐっすり眠っています。余韻を夢の中で楽しんでいるみたいです。
- ・ もともと音楽が好きでしたが、「音楽広場」に参加するようになってから、バックグラウンドにメロディが聞こえる中で、とても楽しく心地よく、有意義に過ごすことによって、楽しい＝好き＝音楽となりました。音楽を聴くと、体中でリズムを取って、楽しいと表現するようになりました。成長したなあと思うことは、「今、聞きたい曲」というのが自分の中ではっきりと出てきたことです。自分自身精一杯、「ナンナンナン」とリクエストしているのですが、わからない事が多く、あれかな？これかな？と講師のお二人はいろいろ試してくださいました。そして、ついに「ビンゴ！」思いが伝わるうれしさを味わうことができ、伝えようという意識が強くなったように思います。これからも、音楽を通して、いろいろ学んでいって欲しいなあと思います。
- ・ 毎月の音楽広場通信を読み返し、改めて1年の速さを感じました。最近は「もう1年過ぎてしまった・・・！」と名残惜しい気持ち、焦りも感じている



交流会（3/9）

日々です。息子にとっては音楽広場が発散できる場になっています。あらゆる場面で成長とともに規制されることが増えました。十分に思うように体を動かせる場所、機会も少なくなった息子には、音楽広場が貴重な場なのだと思います。そして、息子の強みである「コミュニケーション」をめいっぱい楽しめました。音楽を通して、講師の方々とかかわりを深めていただけたことがうれしかったです。来年度の不安（環境の変化による乱れ）もありますが、まだ少しずつ成長していけたらと思います。

- ・ 1年間あっという間に過ぎていきました。私達家族の知らないことを毎回なにかしらやらかしてくれるようで楽しみにしています。歌うのも、いつも同じ歌ばかりでなく、いろいろと広がりも出てきたようです。初めは手が出なかった楽器もかなりなじんできているように聞いています。学校を卒業した今、この広場だけが唯一の活動場所になりました。これからも長く続けさせてやりたいと思います。
- ・ 昨年に引き続き、この1年もピアノを弾くことを楽しみにしていた息子でした。一度も広場の日を嫌がったりせず、「今日もピアノするねん」と張り切って学習センターへ走って行き、スタジオに入るとまっすぐにピアノへ。そして、帰り道では「めっちゃ楽しかった、指動かしたから痛いわ」などと話しながら、ニコニコ笑う顔がとても心に残ります。本人に広場の感想を聞くと「楽しい！ただそれだけ」とのこと。楽しい時間と場所をありがとうございました。
- ・ 娘は、この1年間で音楽とふれ合う事の楽しさ、社会と（家族ではない他の人と）関わる勇氣、外の世界をもっと見たいと思う意欲が更に強くなったような気がします。それが成長の一過程だと言ってしまうとそれまでですが…。なかなかみんなの前で自分を出せない娘にとっては、小さいけれど声を出したり、歌を歌ったり、思いっきり笑ったり、そんな事が「普通にできる・しても構わない」音楽広場が、随分世界を変えてくれました。「あの歌、歌うねん！」「あの曲は何？」と意欲的に(?!）参加して楽しめたと思っています。
- ・ 楽器演奏や歌うことを他の人と一緒にすることが大好きで、特にピアノは伴奏者によって弾き方を変えるので、音楽は、言葉の無い娘のコミュニケーション手段のひとつだと思ってきました。でも、最近、音楽そのものを楽しんでいると思うようになりました。もちろん今でも、1人より他の人と一緒にする方が好きではありますが。音楽を楽しむ、音楽を使って人とかかわることを楽しむ。音楽は手段であり目的だと思うようになりました。だからやっぱり、音楽で何かを習得するというだけでなく、楽しかったらそれでいい！と思っています。何も求められず強制されず楽しむことのできる時間と場の大切さを改めて感じています。同時に、その場と時間を作り出す講師の大変さも感じています。



● 2007年度活動報告 ●

- 2007年 5月12日(日) 「NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ」設立3周年記念行事
シンポジウム「いのちをまなざす いのちによりそう」
(大阪市立城北市民学習センター)
- 5月27日(日) 保護者交流会Ⅰ／障害児レクリエーション(音楽遊び)
(大阪市立城北市民学習センター)
- 6月23日(土) 研修会「コミュニケーションについて学ぼう」
(大阪市立城北市民学習センター)
- 7月7日(土) 外出体験(公共交通機関の利用・ポーリング)
(地下鉄谷町線関目高殿駅集合
大阪市立長居障害者スポーツセンターへ)
- 8月24日(金) 保護者交流会Ⅱ／障害児レクリエーション(買い物&クッキング)
(大阪市立旭区民センター)
- 9月～ 「不登校児支援機関・団体広報チラシ」の配布(旭区内)
- 11月11日(日) 保護者ワークショップ／障害児レクリエーション(スポーツ)
(大阪市立城北市民学習センター)
- 2008年 2月3日(日) 映画上映会及び「子どもから始める個人将来計画」報告会
&障害児レクリエーション(節分)
(大阪市立旭区民センター)

通年 ◎音楽広場 (月1回 計11回) (大阪市城北市民学習センター)

◎個別の活動へのボランティアコーディネート

参加人数： のべ 子ども69人 ボランティア66人

活動内容： 話し相手、遊び相手、外出サポート、学習支援、プールなど

◎子どもからはじめる個人将来計画の検討

4月20日(金)	キックオフ・ミーティング 検討委員会①
5月20日(日)	Aさんワークショップ(個人プロフィールの作成)
6月12日(火)	Aさん計画作成会議(計画の作成)
7月1日(日)	Bさんワークショップ(個人プロフィールの作成)
8月8日(水)	Bさん計画作成会議(計画の作成)
8月23日(木)	Cくんワークショップ(個人プロフィールの作成)
10月13日～14日	出発なかまの会主催「個人将来計画セミナー」受講(助成外)
11月14日(水)	計画検討会議①／検討委員会②
11月25日(日)	計画検討会議②／検討委員会③
12月15日(土)	計画検討会議③／検討委員会④
1月12日(土)	計画検討会議④／検討委員会⑤

以上、独立行政法人福祉医療機構〔長寿・子育て・障害者基金〕助成事業

その他： あさひ不登校ねっと・草の根ネットワークねっこ・あさひ子育てネットワーク「きしゃぼっほ」の定例会、セルフヘルプグループ運営支援、あさひあったかまちづくり計画への参加など



設立から4年間、みなさんのご希望にお応えしようと、少ないスタッフでイベントを切り盛りして走り続けてきました。今年度は、ゆっくりじっくり皆さんと繋がっていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2007年度の事業内容の報告書（個人将来計画の手法含む・A4サイズ82頁）をご希望の方は、80円切手を添えてお申し込みください。（2007年度賛助会員の方々にはお送りさせていただいています）

年度が変わりましたので、賛助会費のご協力をよろしくお願い申し上げます。

